

Maxwell[®] RSC Large Volume ccfDNA Plasma Kit, Custom (カタログ番号 AX1115) 簡易マニュアル

Ver.2 (July, 2016)

ご用意いただくもの

- ピペットマン (P-200, P-1000)とそれらのチップ
- 15ml コニカルチューブ
- ローテーター (例: Labnet社 LabRoller Rotator II H5100) および 15mlコニカルチューブ用のカローセル

血漿の調製

1. 全血を2,000×gで10分間の遠心を行う。ピペットを使って、血漿の画分を注意深く別容器に移す。
2. 血球成分の混入を防ぐため、同様の手順をもう一度行う。
3. 血漿は1週間まで冷蔵保存できます。長期の場合、冷凍保存です。凍結/融解は避けてください。

2~4ml 血漿からの手順

ccfDNAとMagnetic Resinの結合のための前処理

1. 2-4mlの血漿を15mlコニカルチューブに加える。さらに、等量のBinding Bufferを加える。
2. Magnetic Resinのボトルをよく振って、Magnetic Resinを完全に懸濁させる。
4. 140μlのMagnetic Resinを血漿とBinding Bufferを加えた15mlコニカルチューブに加える。
5. ローテーターにコニカルチューブをセットし、ローテーションしながら、45分間のインキュベーションを行う。
備考: Labnet社 LabRoller H5100の場合、回転数 約20rpm、角度 約35°。
6. 1,000×g、2分間の遠心を行い、Magnetic Resinを沈殿させる。

カートリッジの準備

1. 検体数分のカートリッジをMaxwell[®] RSC/CSC Deck Trayに立て、そのアルミシールを剥がす。
カートリッジの両端がカチツというまで、しっかりとセットする。
注意: サンプル数が少数の場合には、Maxwell[®] RSC/CSC Deck Trayの中央部分をお使いください。
2. Magnetic Resinの沈殿したコニカルチューブから、上澄みのバッファーを廃棄する。
3. カートリッジのウエル1(一番大きなウエル)に含まれるバッファーを、ピペットマンを用いて、このコニカルチューブに移す。

備考: Magnetic Resinを懸濁する為ですので、ウエル1のバッファー全量を移す必要はありません。

技術的なお問合せは:

e-mail: prometec@jp.promega.com • Tel: 03-3669-7980 • Fax: 03-3669-7982

4. Magnetic Resinを移したバッファーで懸濁する。懸濁はピペティングで行ってください。ボルテックスを行った場合、Magnetic Resinが管壁に付着し、ロスする可能性があります。
5. Magnetic Resinを懸濁したバッファー全部を、カートリッジのウエル1に戻す。
Elution Tubeのフタは絶対に閉めないでください。
 - ※ 10~15μlの液量が減少し、約60μlを回収することができます。
 - ※ 60μl以下のElution Bufferの液量では、濃度は変わらず、収量は低下する可能性があります。
7. プランジャーをカートリッジのウエル8に置く。



8. Maxwell RSC Instrumentを起動し、Startから『Large volume cell free DNA custom / AX1115』を選択する。
9. Maxwell® RSC/CSC Deck Trayを、Maxwell® RSC Instrument本体にセットし、精製操作をスタートする。

精製終了後の操作

1. Maxwell RSC® Instrumentのドアを開け、Elution Tubeのフタを閉める。
2. Maxwell® RSC/CSC Deck Trayを取り出し、Elution Tubeを適切に保管する。
3. Maxwell RSC® Instrumentのドアを閉める。カートリッジとプランジャーを廃棄する。